

【施策の柱1】一人ひとりの自主的な地球温暖化対策を広げる

基本方針1-1
地球温暖化に関する環境学習の普及

基本方針1-1 地球温暖化に関する環境学習の普及							
施策	主管	取組名	H25年度計画 (2013年度)	25年度実施結果			環境基本 計画(改) 第3期
				①実績・実施内容	②評価	③評価の説明や取組に対する自己評価	
施策①学校教育などにおける環境学習への支援							
①	教育総務課/ 教育指導課/ 環境政策課	「わかば環境ISO」の取組 【重点】	公立幼稚園・小中 学校での推進 民間幼稚園への 普及	各校(園)から提出される各種書類により計画的に取組みが実践されていることを確認した。また、ホームページにおいて、取組み状況を2回更新した。	○	担当者研修会の実施やホームページによる情報発信により、わかば環境ISOへの理解が深まり、学校(園)での円滑な取組みに繋がっている。	○
①	保育課	保育園における環境への取組の促進	継続実施	行事の際にペットボトルなどの廃材を利用して作品を作成した。ゴーヤ等を利用した緑のカーテンの取組みや、水遊びの際に節水や排水の再利用を心がけるなどの環境配慮を呼びかけた。(全10園で実施) 環境配慮行動チェックシートを各園に配布し、環境に対する意識を高めてもらった。	○	保育園で作品を制作する際には廃材を利用するなど、環境に配慮した取り組みを積極的に行った。また、節水に関しては園児たちに周知を行い、環境に配慮する意識を高めた。 環境に配慮する意識は定着しているものとする。	○
①	循環型社会推進課/ 環境政策課	「ごみ学級」等の実施 【重点】	継続実施	28校中25校で実施した(申し込みは26校。うち1校は都合により辞退)。	○	市内全校では実施することができなかったが、ごみの減量化及び資源化の推進については、計画通りに取り組むことができた。	○
施策②子どもの環境活動への支援							
②	環境政策課/ 教育研究所	環境学習教材や情報の提供 【重点】	継続実施	環境学習教材の貸し出しをした。学習教材「わたしたちの平塚」の環境事業センター等環境政策ページの改定を行った。	○	計画通り実施できた。	○
②	環境政策課	子ども環境教室及び環境ポスター・作文コンクールの開催	継続実施	子ども環境教室(参加者…海編:63人、里山編:67人、川編:92人)や環境フェア等にて環境教室を実施した。また、小中学生を対象とした環境ポスター・作文コンクール(応募者366人)を実施した。	○	多くの子ども達の参加があり、環境に関して身近に感じ、考えてもらうきっかけ作りができた。	○
②	青少年課	こども自然体験教室の開催	継続実施	びわ青少年の家で、農作業や収穫物の加工・創作活動などを行う、こども自然体験教室(びわっ子クラブ)を会員30名で年9回実施した。	○	計画通り農作業や収穫物の加工・創作活動を会員30名で年9回実施できた。	○
施策③環境学習の機会の提供							
③	環境政策課	里山体験教室等の開催	9回開催	里山体験教室等を11回開催し、計418名の市民の方が参加された。	○	里山保全モデル事業を7回、市民・大学交流事業を3回、夏休み子ども環境教室を1回開催した。	○
③	青少年課/ 中央公民館	青少年育成・生涯学習等における環境学習の促進	継続実施	地域の川に生息する生き物観察会や海の漂着物の観察とその漂着物を使った工作教室等、環境に関連した事業を実施した。 (11事業、延べ参加者数 440人)	○	各地区の自然を生かした植物や生き物の観察会などの講座を行い、地域の人材を活用しつつ環境に関する講座を実施し、前年度に比べ参加者数226人増加した。	○
③	博物館	博物館における環境に関する講座等の開催	継続実施	野鳥観察会(1回、9人)、キノコの観察会(1回、7人)、水生生物の講座(1回、13人)、植物の染色体験(2回、46人)を実施した。また、市民グループが主体となり市内の植物相の状況調査と植物標本の整理を行った。	○	自然に関する基礎知識を提供する講座のほか、現地での観察会は身の回りにある自然環境に目を向ける契機になっている。また、市内の状況調査は今後の事業の内容に反映させるべき、地域の基礎情報となる。	○
③	環境政策課	市民活動団体等と連携した出前講座等の実施 【重点】	10回実施	地球温暖化対策出前講座を10回開催し、465人が参加した。	○	案内チラシや教頭会等で各小中学校等へ積極的に周知を行った結果、予定開催数の10回実施することができた。	○

【施策の柱1】一人ひとりの自主的な地球温暖化対策を広げる

基本方針1-2

環境に関連する産業活動や地域活動
などの振興

基本方針1-2 環境に関連する産業活動や地域活動などの振興

施策	主管	取組名	H25年度計画 (2013年度)	25年度実施結果			環境基本 計画(改) 第3期
				①実績・実施内容	②評価	③評価の説明や取組に対する自己評価	
施策①地球温暖化対策に取り組む市民活動への支援							
①	協働推進課/ 環境政策課	ひらつか市民活動センター、環境活動支援事業、ひらつか市民活動ファンド	支援実施	「公益信託ひらつか市民活動ファンド」により市民活動団体10団体の内、環境に関する3団体への助成金の交付を行った。 市民団体が行う環境保全活動に対する支援事業を実施した。また、環境教室や活動発表会などを4回実施した。	○	25年度助成対象の10団体の中で環境に関するものは、駅前の環境美化、ゴミ拾い活動、放射能に関する普及啓発活動で、総額23万円を助成した。総助成額の14%程。 馬入水辺の楽校の会、神奈川県環境学習リーダー会、地球っ子ひろば、漂着物を拾う会の4団体へ総額10万円を交付した。また、緑化まつり、ひらつか環境フェア、パネル展、活動発表会等で、ひらつか環境ファンクラブの活動を紹介した。	○
①	循環型社会推進課/ みどり公園・水辺課	環境保全活動団体への支援	継続実施	ごみ減量化団体及び美化推進団体に対し支援をした。 【公園愛護会】 ・公園愛護会への交付金の交付 ・連絡協議会への補助金の交付 ・総会、研修会の実施、会報の発行 【緑化モデル団体】 連絡協議会との連携として、情報提供や事業支援を行った。	○	活動団体に対する適切な支援であると考えている。 ・交付金及び補助金の交付により活動の支援を行うとともに、総会・研修会・会報発行を通して情報提供を行った。 ・総会等の場を通じて団体間のコミュニケーションが図られてるとともに、団体が行う市内の緑を増やす活動の支援ができています。	○
①	環境政策課	市民を主体とした継続的な里山保全活動の促進	継続実施	里山保全モデル事業実施時に里山保全に関する研修等を実施した。ホームページ等を利用し、里山保全事業に関する情報の発信を行った。	○	市民ボランティアやジュニアリーダー等に向け、里山保全に関する研修等を実施した。ホームページ及び課ツイッターを利用し、里山保全モデル事業等の情報を発信した。	○
施策②地球温暖化対策に関する交流や情報交換の促進							
②	環境政策課	「ひらつか環境ファンクラブ」の活動の促進	継続実施	活動発表会を4回開催した。	○	①4月に「緑化まつり」に参加し、パネル展示と環境教室を実施した。 ②7月にOSC湘南シティで開催された「ひらつか環境フェア2013」に参加し、パネル展示と環境教室を実施した。 ③3月に平塚市役所市民ホールにて、「ひらつか環境展」を実施した。 ④3月に博物館にて、「ひらつか環境ファンクラブ活動発表会」を実施した。	○
施策③地球温暖化対策に寄与する産業の振興							
③	産業振興課	平塚市環境共生型企業懇話会	懇話会開催	平塚市環境共生型企業懇話会を6回開催し、その他に役員会も行った。	○	企業間の事例発表や講演会、施設見学の開催と活動発表のための展示会への出展などによって、企業間における環境負荷の軽減への取組を支援した。	○
③	産業振興課	平塚市企業立地促進補助金 (環境設備助成)	助成制度の見直し	・中小企業が導入した太陽光発電設備を助成するため制度の見直しを行った。 ・環境設備助成の適用申請を1件受け付けた。	○	計画どおり助成制度を見直し、支援内容を拡充した。	—

【施策の柱1】一人ひとりの自主的な地球温暖化対策を広げる

基本方針1-3

エコライフ・エコオフィス等の普及

基本方針1-3 エコライフ・エコオフィス等の普及

施策	主管	取組名	H25年度計画 (2013年度)	25年度実施結果			環境基本 計画(改) 第3期
				①実績・実施内容	②評価	③評価の説明や取組に対する自己評価	
施策①家庭のエコライフ推進への支援							
①	下水道経営課	雨水の有効活用の促進	助成実施	17基の補助金申請に対し17基に補助金を交付した。 (雨水貯留槽：17基 浄化槽転用雨水貯留槽：0基)	△	広報やホームページで周知した結果、概ね計画どおりの申請があった。制度のさらなる周知を今後の課題とする。	○
①	環境政策課	新エネルギーに関する普及啓発の実施	継続実施	緑化まつりやひらつか環境フェアなどのイベントにおいて、市民団体とともに新エネルギーに関する環境教室等を実施した。	○	おもちゃを使った太陽光発電の体験やソーラーオルゴールの工作など、子どもの目線に合わせた環境教室を開催した。	○
①	環境政策課	一般住宅への太陽光発電システムの設定に対する助成 【重点】	計1,710kw助成	1,590kwの助成を行った。	○	広報ひらつか、ホームページ等への掲載、各イベントでのチラシの配布等で周知を行った結果、概ね目標を達成することができた。	○
施策②事業所のエコオフィス推進への支援							
②	環境政策課	新エネルギーに関する普及啓発の実施	継続実施	緑化まつりやひらつか環境フェアなどのイベントにおいて、市民団体とともに新エネルギーに関する環境教室等を実施した。	○	おもちゃを使った太陽光発電の体験やソーラーオルゴールの工作など、子どもの目線に合わせた環境教室を開催した。	○
施策③「ひらつかCO2CO2(コツコツ)プラン」の拡充と推進							
③	環境政策課	「ひらつかCO2CO2(コツコツ)プラン」の取組の呼びかけ等 【重点】	6,000人参加	「環境フェア」などのイベントや小中学校を通じて児童・生徒と保護者など市民等への普及に努め、家庭編では1,463人、小中学生7,045人の計8,508人の参加があった。	○	「ひらつか環境フェア」などのイベントや、小中学校を通じて児童・生徒及び保護者に取り組みを呼びかけた結果、目標を大幅に上回ることができた。	○

【施策の柱2】都市の低炭素化と気候変動への適応を図る

基本方針2-1 交通の低炭素化

基本方針2-1 交通の低炭素化

施策	主管	取組名	H25年度計画 (2013年度)	25年度実施結果			環境基本 計画(改)
				①実績・実施内容	②評価	③評価の説明や取組に対する自己評価	第3期
施策①公共交通のより使いやすいまちづくり							
①	交通政策課	地域公共交通強化の検討 【重点】	地域公共交通の導 入基準の検討	先進都市を視察するなどして、導入にあたっての研究を行った。	△	研究は行ったが、導入基準の作成までは至らなかった。	—
①	交通政策課/ 都市整備課	交通結節点強化の検討	バス事業者と連携 した整備検討	県や関係自治体で検討した。	○	新幹線新駅期成同盟会の場で取り組む方向性を確認や、関係自治体間での進め方の協議を行った。	—
①	交通政策課	路線バスの利便性の強化 (路線バス走行環境整備 事業計画、バス優先レー ン関連) 【重点】	路線バス走行環境 整備事業計画の検 討 バス優先レーンの 専用化社会実験	バス主要3路線の広範囲で速度低下箇所を調査したが、費用面を考慮すると効果的な手法が見い出せなかった。	△	バス事業者との意見交換で現状把握ができ、実地調査においても現行の速度に妥当性があり、交差点改良や道路の拡幅等の一定の結論が出た。	○
①	交通政策課	路線バスの利便性の強化 (情報提供関連) 【重点】	バス情報案内提供 の検討	バスマップについてバス事業者と協議をしたが、作成主体をどうするか等具体的な進捗は望めなかった。ただし平塚営業所路線図が作成されたので伊勢原案野方面の追加でバスマップのイメージが確認できた。	×	バス事業者とは情報交換のみで作成方法等、具体的進展がなかった。	○
①	交通政策課	路線バスの利便性の強化 (待合い環境整備関連) 【重点】	バス待待合い環境 整備事業要綱の検 討	上屋を設置するバス待候補を抽出し、整備パターンイメージ案を作成した。	△	整備パターンイメージ案を作成したものの、バス事業者と具体的な協議には至らなかった。	○
①	都市整備課	ツインシティでの公共交 通の利用促進	検討	環境と共生するまちづくり検討会で検討した。	○	開催した5回の検討会で検討を行った。	—
施策②自転車のより使いやすいまちづくり							
②	道路整備課/ 交通政策課	自転車通行帯の整備 【重点】	自転車走行環境整 備計画の検討	策定体制を設立し、現状の把握、課題の整理をし、ネットワーク候補路線と整備形態選定基準を作成した。	○	平成26年度の計画策定に向け、スケジュールどおりに実施した。	—
②	道路整備課	平塚駅西口周辺の自転車 走行環境整備の検討 【重点】	推進計画の実施 実施計画(素案) の作成、必要に応 じて社会実験の実 施	南町通東浅間線(L=230m)に自転車走行位置の明示を行った。	○	計画通り実施できた。	—
②	交通政策課	民間自転車等駐車場整備 への支援 【重点】	見直し後の支援	駐輪場の整備状況や放置自転車の数などを勘案した結果、民間駐輪場の必要性があることから補助金制度を継続した。また、民間駐輪場の整備を促進するために、電話や広報ひらつか等でも周知に努めた。	○	民間駐輪場2か所が開設された。	○
施策③交通の分散と円滑化							
③	道路整備課	幹線道路の整備	用地買収	幹線道路(河内公所線)等の整備を実施した。	○	計画通り実施できた。	—
③	道路整備課	交差点の改良	用地買収	吉沢土屋線(座禅川橋)交差点の改良を実施した。	△	計画が平成26年度にずれこんだ。	○
③	交通政策課	モビリティ・マネジメン ト等の検討	—	—	×	総合交通計画では中長期的な取組み方策として位置付けているため、今後検討する。	—
施策④クリーンエネルギー自動車等の普及促進							
④	環境政策課	電気自動車等普及・促進 事業【重点】	EV購入助成開始 充電設備設置助成	電気自動車36件の助成。 電動バイクの助成実績はなし。	△	広報ひらつか、ホームページ等への掲載、各イベントでのチラシの配布等で周知を行った結果、電気自動車の助成については、目標を達成することができた。しかし、電動バイクについては、目標を達成することができなかった。充電設備への助成については、国や自動車メーカーの補助金制度が充実しているため、実施しないこととした。	○

【施策の柱2】都市の低炭素化と気候変動への適応を図る

基本方針2-2

緑と水を活用した熱対策の普及

基本方針2-2 緑と水を活用した熱対策の普及

施策	主管	取組名	H25年度計画 (2013年度)	25年度実施結果			環境基本 計画(改) 第3期
				①実績・実施内容	②評価	③評価の説明や取組に対する自己評価	
施策①まとまりある樹林地の環境保全							
①	環境政策課	里山保全モデル地区における活動の推進	継続実施	土屋頭無地区で里山保全モデル事業を7回実施した。	○	5月と10月から3月まで月1回のペースでモデル事業を開催し、累計で80名の参加者があった。	○
①	みどり公園・水辺課	樹林地の保全に向けた各種法制度の活用	継続実施 実施計画改訂	制度の研究をしたが、精度の活用まではいたらなかった。	×	樹林地の保全は、法制度の活用だけではできない。25年度は、特に法制度を活用する機会がなかった。	—
①	みどり公園・水辺課	保全樹・保全樹林の指定と保全	継続実施 実施計画改訂	保全樹木59本 保全樹林9箇所 保全生垣5箇所	×	基準に基づき候補樹木の調査(12箇所)をしたが、新規指定にふさわしいものはなかった。維持管理の助成を行った。また指定解除があったため、昨年度より1本減少した。	○
①	農水産課	県との連携による湘南海岸砂防林保全の推進	湘南海岸砂防林の保全	平塚市森林計画の指定エリアを継続した。	○	砂防林指定区域の指定エリアを維持した。	—
施策②農地の環境保全							
②	農水産課	農業振興地域整備計画の推進	農用地の保全	農振農用地区域の指定を継続し、農地等の面積を維持した。	○	指定エリアを維持した。	—
②	農業委員会事務局	農地流動化の促進	継続実施予定	新たに6.6haの農地の貸し借りが設定された。	○	農業者の高齢化・後継者不足により農地の遊休化防止・解消のため、農家双方の間に入って貸し借りの促進を行った。	○
②	農水産課	市民農園設置への支援	設置への支援及び補助	広報ひらつかや市ホームページ等により農地地権者へのPRを行うとともに、農園開設の意向がある農地について、事前調査を実施した。その結果、吉沢地区に1園開園した。	○	市民農園開設地のバランスをはかりながら、吉沢地区に1園(24区画)開設した。区画割りや物品購入費の一部を補助する等、開設のための支援を行った。	○
②	農水産課	サポートファーマーの育成	援農組織への新規登録	市民17人を対象に、湘南農業協同組合の専門講師の指導の下、事業を実施した。(農業実習:45回、農業講義:11回)	○	サポートバンクなど援農組織へ誘導した。	○
②	農水産課	農業理解の促進	イベントへの支援	米づくり体験隊、トマト収穫体験及びびでてこいまつり等の開催を支援した。	○	イベントの支援を行なうことで、市民に対し農業理解の促進を図った。	—
②	農水産課	「ひらつか花アグリ」の活動推進	運営	市民を対象にした農業講習会を年4回実施、農の体験・交流館たよりを年5回発行した。 また、花菜ガーデン、あさつゆ広場等と連携しひらつか花アグリ収穫祭の一環として農の体験・交流館収穫祭を実施した。(来場者584名) 水田農業における休耕期に、農業者の参画のもとクリムソクローパー等の景観形成作物を栽培した。	○	体験事業等を通して市民に対して農業との触れ合いの機会を創出したり、市民農園の利用者に農業研修を行うなど、農業理解促進を図ることができた。 ひらつか花アグリ景観づくりを実施し、来場者に楽しんでいただいた。 また、新たな取り組みとして花畑の中に市内の障がい者施設の利用者が作成した看板を設置して田園風景と花とアートの融合を図った。ただし、播種面積は減少し続けているため、今後の取り組みには工夫が必要。	○
②	農水産課	担い手総合対策の推進	農作業受託組織の拡充 担い手支援協議会の支援	再認定対象者に対して農業経営改善計画作成支援を行った。また、経営など相談を受けた方に対応した。 再認定:52件 新規:1件	○	認定農業者の再認定活動を確実に行うことを中心に、新規認定希望者に対応した。	○
施策③公園や街路樹の整備と活用							
③	みどり公園・水辺課	住区基幹公園の整備	継続実施 実施計画改訂	土屋霊園最終整備工事を実施した。	○	高麗山公園桜補植工事を実施した。	○
③	道路整備課	道路整備時の緑化の検討	継続実施	道路整備時に残地の発生がなかった。	—	緑化可能な残地がなかった。	○

【施策の柱2】都市の低炭素化と気候変動への適応を図る

施策	主管	取組名	H25年度計画 (2013年度)	25年度実施結果			第3期
				①実績・実施内容	②評価	③評価の説明や取組に対する自己評価	
施策④建物や敷地の緑化と水の気化熱の活用							
④	環境政策課	クール・ビル作戦等の実施	継続実施予定	クール・ビル作戦、クール・タウン作戦、みどりのカーテンコンテストを実施した。	○	本庁舎3階・4階西側でクール・ビル作戦を実施するとともに、クール・タウン作戦として799株の苗を142世帯に配布した。	○
④	みどり公園・水辺課	公共施設の緑化手法の検討	検討 実施計画改訂	情報収集を行った。	○	公共施設整備の際は、整備担当課と調整を進めていきたい。	—
④	みどり公園・水辺課	まちづくり条例に基づく事業所等の緑化の促進	継続実施 実施計画改訂	まちづくり条例に基づく協議により、事業場等の緑地を確保した。	○	まちづくり条例に基づき、緑化指導を実施した。	○
④	みどり公園・水辺課	生垣化への支援と新たな緑化制度の導入	生垣設置支援 新制度検討 実施計画改訂	新たな生垣設置の136.7mに対して助成を行った。 新たな緑化制度は導入しなかった。	○	いけがき設置奨励制度により、8件（前年度より3件減）に対して助成を実施した。 効果的な緑化制度を企画することができなかった。	○
④	みどり公園・水辺課	緑化の普及啓発活動の実施	継続実施 実施計画改訂	第40回平塚市緑化まつりを開催し、2日間で55,000人の来場があった。 第40回平塚市緑化ポスター・標語コンクールを実施し、ポスター621点、標語988点の応募があった。また、ポスター全作品を展示した展示会には、926人の来場があった。	○	開催期間2日間とも好天に恵まれ、前年比7,000人増となった。また、環境配慮型イベントとしてごみの減量化に取り組んだ。	○
④	都市整備課	ツインシティでの緑化の導入・推進の検討	準備	環境と共生するまちづくり検討会で検討した。	○	開催した5回の検討会で検討を行った。	—
④	都市整備課	ツインシティでの透水性舗装等の導入の検討	検討	環境と共生するまちづくり検討会で検討した。	○	開催した5回の検討会で検討を行った。	—

【施策の柱3】低炭素となる新たなエネルギー技術を活用する

基本方針3-1

太陽光発電などの自然エネルギー利用の普及

基本方針3-1 太陽光発電などの自然エネルギー利用の普及

施策	主管	取組名	H25年度計画 (2013年度)	25年度実施結果			環境基本 計画(改) 第3期
				①実績・実施内容	②評価	③評価の説明や取組に対する自己評価	
施策①太陽光発電システムの率先的な導入							
①	建築住宅課/ 事業担当課	公共施設への太陽光発電 システムの率先導入	適宜導入	環境事業センター、資源循環施設 が完成した。市役所新庁舎建設は 工事が順調に進捗している。	○	太陽光発電システム導入により、環境 に配慮した公共施設の整備が進んだ。	○
施策②太陽エネルギー利用への支援							
②	環境政策課	一般住宅への太陽光発電 システムの設置に対する 助成及び普及啓発 【重点】	計1,710kw助成	371件(1,590kw)の助成を行っ た。 緑化まつりやひらつか環境フェア などのイベントにおいて、市民団 体とともに新エネルギーに関する 環境教室等を実施した。	○	各種イベントでのチラシの配布やホー ムページ等での掲載により、制度の周 知を行った。 おもちゃを使った太陽光発電の体験や ソーラーオルゴールの工作など、子 どもの目線に合わせた環境教室を開催し た。	○
施策③県のスマートエネルギー構想との連携							
③	環境政策課	かながわソーラープロ ジェクトとの連携の検討 【重点】	検討予定	太陽光発電システム導入に対し補 助するとともに、「屋根貸し事 業」について、他市の設置事例の 調査・研究を実施し、課題等につ いて整理、検討を行った。	○	「屋根貸し事業」導入にあたっての課 題整理など、検討を進めるとともに施 設所管課への意向調査を実施した。	—
③	環境政策課	スマートエネルギー構想 との連携の検討 【重点】	検討予定	創エネ、省エネの観点から家庭用 燃料電池(エネファーム)の補助 制度を行った。	○	68件に対して補助を行い、予算執行率 は97%を超えた。エネファームを普及 推進することで、住宅のスマートハウ ス(創エネ)を図ることができた。	—

【施策の柱3】低炭素化となる新たなエネルギー技術を活用する

基本方針3-2

二酸化炭素の排出を抑える様々な技術の普及

基本方針3-2 二酸化炭素の排出を抑える様々な技術の普及

施策	主管	取組名	H24年度計画 (2013年度)	25年度実施結果			環境基本 計画(改) 第3期
				①実績・実施内容	②評価	③評価の説明や取組に対する自己評価	
施策①公共施設等のエネルギー対策の推進							
①	建築住宅課	市営住宅の省エネ改修	2~3棟改修	市営東中原住宅5号棟及び6号棟の屋上に断熱工法を用いた防水改修を施工した。	○	市営住宅の省エネルギー対策が進められた。	—
①	危機管理課	防犯街路灯の省エネ改修	150灯交換	防犯灯へのLEDの導入98灯、自治会等が管理する防犯灯へのLEDの導入助成194灯を行った。	○	既存の蛍光灯防犯灯からの転換及び新規設置により、計画数量を上回る導入ができた。 助成対象とした236灯のうち、82.2%にあたる194灯にLEDが使われた。	○
施策②二酸化炭素排出を抑えるエネルギー対策の普及							
②	環境政策課	新エネルギー導入に関する調査・検討、普及啓発の実施	検討	新エネルギーに関する情報収集などを行った。	○	新エネルギーに関する情報収集などを進めた。引き続き、現在行われている技術開発・改良や実証試験、普及状況などの推移について、情報収集を行う必要がある。	○
施策③ツインシティのエネルギー対策の検討							
③	都市整備課	ツインシティでの新エネルギーシステムの導入の検討	検討	環境と共生するまちづくり検討会で検討した。	○	開催した5回の検討会で検討を行った。	—

【施策の柱4】ごみを減らし、廃棄物・排熱を有効に使う

基本方針4-1

ごみの焼却処理の減量化

基本方針4-1 ごみの焼却処理の減量化

施策	主管	取組名	H25年度計画 (2013年度)	25年度実施結果			環境基本 計画(改)
				①実績・実施内容	②評価	③評価の説明や取組に対する自己評価	第3期
施策①3Rの推進							
①	環境施設課	再生家具のリユース促進	継続実施	市民から出された粗大ごみの中から再利用可能な家具を修理再生し、市民に提供して再利用を促した。	○	計画どおり再生家具の提供を年6回約50点ずつ実施して再利用を促した。	○
①	循環型社会推進課	家庭ごみの収集有料化の検討	調査・研究	廃棄物対策審議会において、ごみの減量化策の1つとして、家庭系ごみの有料化について議論を行った。	○	廃棄物対策審議会としての提言として「家庭系ごみの有料化について」をまとめた。	○
①	循環型社会推進課	多量排出事業者指導事業	56件	62の事業所に対し、減量化等計画書を提出させることにより、事業者自身に現状を把握させ、減量化計画を立てさせた。また、当市も内容を把握するとともに15の事業所に立入調査を実施した。	○	計画通り実施できた。	○
①	循環型社会推進課	平塚市ごみ減量化・資源化協力店制度	継続実施	ごみ減量化・資源化協力店については商店の閉鎖等により、拡充はできなかった。	△	ごみ減量化・資源化協力店への新規の申し込みはあるが、閉店する店舗が多く協力店数は減少した。新規登録の啓発が必要。	○
①	循環型社会推進課	平塚市ごみ減量化婦人の会の活動支援	継続実施	交付金による活動支援やイベント開催への支援、ちらし作成などを行った。	○	ごみ減量化婦人の会によるごみの減量化の啓発に対し十分な支援を行えた。	○
①	循環型社会推進課	ごみに関する啓発活動の実施	継続実施	28校中25校で実施した(申し込みは26校。うち1校は都合により辞退)	○	市内全校では実施することができなかったが、ごみの減量化及び資源化の推進については、計画通りに取り組むことができた。	○
①	循環型社会推進課	剪定枝資源化事業	200t	広域処理施設の整備の事業者が決まり、準備が進められている。また、ごみ分別区分に「剪定枝」を設け統一させていくことが確認されている。	○	計画通り実施できた。	○
①	循環型社会推進課	生ごみ自家処理への支援	助成台数を勘案して検討	コンポスター62台を販売し、電動生ごみ処理機32件に対して補助を行った。	△	コンポスターは前年実績、及び販売予定台数を下回ったが、電動生ごみ処理機の補助件数は前年実績を上回った。	○
施策②広域的なごみ処理と新たな処理施設の整備							
②	環境施設課	ごみ処理広域化実施計画	焼却施設稼働	新たなごみ焼却施設を整備・稼働した。 1市2町のごみ分別統一化に向けて、分別収集区分の統一に係るマニュアルを作成した。	○	平成25年10月に本稼働した。施設を広域的に利用するためには各市町の分別収集区分を統一することが必要。	○

【施策の柱4】ごみを減らし、廃棄物・排熱を有効に使う

基本方針4-2

廃棄物・排水からのエネルギーの利用

基本方針4-2 廃棄物・排水からのエネルギーの利用

施策	主管	取組名	H25年度計画 (2013年度)	25年度実施結果			環境基本 計画(改) 第3期
				①実績・実施内容	②評価	③評価の説明や取組に対する自己評価	
施策①ごみ処理から発生する排熱利用の推進							
①	環境施設課	環境事業センターの発電 施設整備	整備	発電余剰分として約 12,285,360kwhの電力を売電し た。	○	新環境事業センターの運営事業者が発 電余剰分を売電した。	○
①	環境施設課	環境事業センター周辺整 備事業	検討	基本設計に着手した。	○	パブリックコメントを経て、「平塚市 余熱利用施設整備方針」を策定した。 設計会社と基本設計・実施設計委託業 務を締結し設計を進めている。	○